

第2学年 国語科学習指導案

低学年のめざす子どもの姿

- 学習の仕方を身につけ、思いや考えを伝え合い、自分や友だちの考えのよさに気づくことができる子
- 友達との関わりを大切に、学んだことを表現することができる子

1 単元名 お話を読んで、しょうかいしよう（教材名「スイミー」）

2 単元設定の理由

本学級の児童（男子5名、女子3名）は、読書や読み聞かせが好きな児童が多く、「ふきのとう」の学習に関するアンケートでも、全般的に国語科の学習に好意的な児童が多い。音読や意見を発表することにも意欲的に取り組み、叙述から音読の工夫を考え、思いを音読に生かそうとする姿も見られる。ペアやグループの話し合いにおいても、ほとんどの児童が、誰が相手であっても活発に自分の意見を伝えようとする事ができる。一方で、最後まで相手の目を見て話を聞いたり、質問された内容を理解し、答えたりするという点では、苦手な児童が多い。また、自分の考えや話し合ったことをノートに「書く」ことについて苦手意識をもつ児童もいる。

本教材では、主人公「スイミー」の行動によって場面が転換し、それぞれの場面における出来事と主人公の気持ちとの関係を理解することができる。また、情景や様子が生き生きと伝わる特徴的な比喩表現が多く登場することも本教材の特徴である。海の底で美しく個性的な海の生き物に出会う中で、スイミーが変化・成長していき、個性を生かして、仲間と共に困難を乗り越えていく物語の面白さを、豊かに想像させることができる教材であると考えられる。

指導にあたっては、注目したい文章を視覚的かつ焦点化して提示することで、学習課題に対する児童全員の理解をそろえ、一人ひとりが自分の考えをもてるように支援していきたい。特に、「書く」ことへの苦手意識をもつ児童の実態を踏まえ、あらすじを場面ごとに小さな短冊にまとめさせたり、書き出しの文型を示したりすることで、書くことへの抵抗を減らせるようにしていきたい。また、対話的に学ぶための工夫として、友達の考えを参考にさせたり、児童たちの思考の過程が見える板書を心掛けたりして、話し合いが深まるようにしたい。さらに、振り返りでは、視点を明確にすることで、ねらいが達成できたか把握できるようにするとともに、友達との学び合いを自分の学びに生かしている振り返りを紹介するなどして、学び合いのよさを広げるようにしたい。

3 目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思C(1)エ）
- 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。（知(1)オ）
- 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って物語の紹介文を書くことができる。（態）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学びに取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(知(1)オ)	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C1(エ))	粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って物語の紹介文を書こうとしている。

5 指導と評価の計画 (全8時間)

次時間	○学習活動 ・学習内容	子どもの思考の流れ	・指導の工夫 □評価 ◎対話的な学びに向かう手立て ◎振り返りにつながる手立て
第一次	1 ○学習の見通しをもつ。 ・単元全体のめあて ・大体的内容 ・初発の感想	・どんなお話かな。 ・一匹だけ黒い魚がスイミーだな。 ・いろんな魚が出てきたよ。 ・楽しいお話だな。もっと詳しく読んで、お家の人にも紹介したいな。	・学習の流れを示し、見通しをもたせる。 ☑学習の見通しをもち、登場人物のしたことや出来事に着目して、感想をもっている。 ・同じ作者の絵本等、関連の本を準備し、読書ができるようにする。
	2 ○登場人物のしたことや出来事を中心に、話の流れを確かめる。 ・あらすじ ・はじめ、中、おわり	・初めは、スイミーの紹介が書いてあるね。 ・この場面から、スイミーの気持ちが変わったのだと思うよ。 ・最後はみんなで大きな魚を追い出すお話だったね。	・挿絵と場面の対応をもとに考えさせることで、作品構成に気づかせる。 ☑作品構成に気づき、人物の行動や出来事を中心におおまかな内容を捉えている。
第二次	3 ○スイミーの人物像をまとめる。 ・人物像	・本文から分かることは、スイミーは誰よりも真っ黒で、誰よりも速いということかな。 ・挿絵をみると、赤い魚の中で1匹だけ黒くて目立っているね。	・スイミーについて分かる文に線を引かせたり、挿絵を提示したりして、焦点化する。 ◎ペアで「スイミー」の人物像を話し合う。 ☑物語の設定を読み取り、スイミーはどんな魚か捉えている。
	4 ○まぐろに襲われた場面の出来事や様子が分かる言葉から様子やスイミーの気持ちを想像する。 ・例えを表す言葉 ・場面の色彩 ・倒置法	・「ミサイルみたいに」と書かれてあるから、すごく大きくて勢いがあるのかな。 ・「暗い海の底」という言葉から、とても暗い気持ちでいることが分かる。	◎様子がわかる言葉を違う言葉に置き換えた文章を提示し、たとえを表す言葉の効果について話し合わせる。 ☑出来事や人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げている。
	5 (本時)	○海の素晴らしいものと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉から様子やスイミーの気持ちを想像する。 ・たとえを表す言葉 ・場面の色彩 ・スイミーの気持ちの変化	・「水中ブルドーザーみたいなせえび」ってどんな感じかな。 ・スイミーは、少しずつ元気を取り戻していったんだね。 ・写真を用意し、様子がわかる言葉のイメージをもちやすくする。 ☑出来事や人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げている。 ◎スイミーになりきって、海のすばらしい世界について想像したことを伝え合う。

第三次	6	○小さな魚の兄弟たちと出会った場面の出来事や様子が分かる言葉から様子やスイミーの気持ちを想像する。 ・倒置法 ・繰り返し ・指示語	・赤い魚たちは大きな魚に食べられてしまうから、じっとしていた方がいいと思っているね。 ・いろんなものに見える海の美しい生き物に出会ったから、大きな魚のふりをするを思いついたのかな。	・スイミーと小さな魚たちの考えがわかる文に線を引かせ、それぞれの考えに着目させる。 ☑出来事や人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げている。 ◎ペアで相談しながら線を引かせる。
	7	○大きな魚を追い出した場面の出来事や様子が分かる言葉から様子やスイミーの気持ちを想像する。 ・時間の経過 ・結末 ・思ったこと	・スイミーが「ぼくが目になろう」と言ったのは、どうしてかな。 ・「あさのつめたい水の中を、ひるのかがやく光の中を」とあるので、朝も昼もずっと泳ぎ続けたのだと思う。	・スイミーの行動や様子をイメージしやすいように動作化させる。 ☑出来事や人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げている。 ◎物語を読んで思ったことをペアで伝え合う。
	8	○物語の紹介文をまとめる。 ・紹介文 ○書いた文章を友達と読み合い、感想を共有する。	・「人物」「あらすじ」「思ったこと」の3つの構成で書くのだな。 ・○○さんの紹介文がわかりやすいな。真似してみよう。 ・同じ筆者の他の作品でも紹介文を書いてみたいな。	・3つの構成を視覚的に捉えやすくしたワークシートを活用する。 ☑出来事を捉えながら、あらすじや感想をまとめている。 ◎「お話の面白さが伝わる」「スイミーのことが伝わる」などの観点から、友達のよさを見つけ、伝え合う。

6 本時案 (第二次 4/8)

(1) ねらい

様子を表す言葉に着目して、想像したスイミーの気持ちを交流することを通して、3場面のあらすじをまとめることができるようにする。

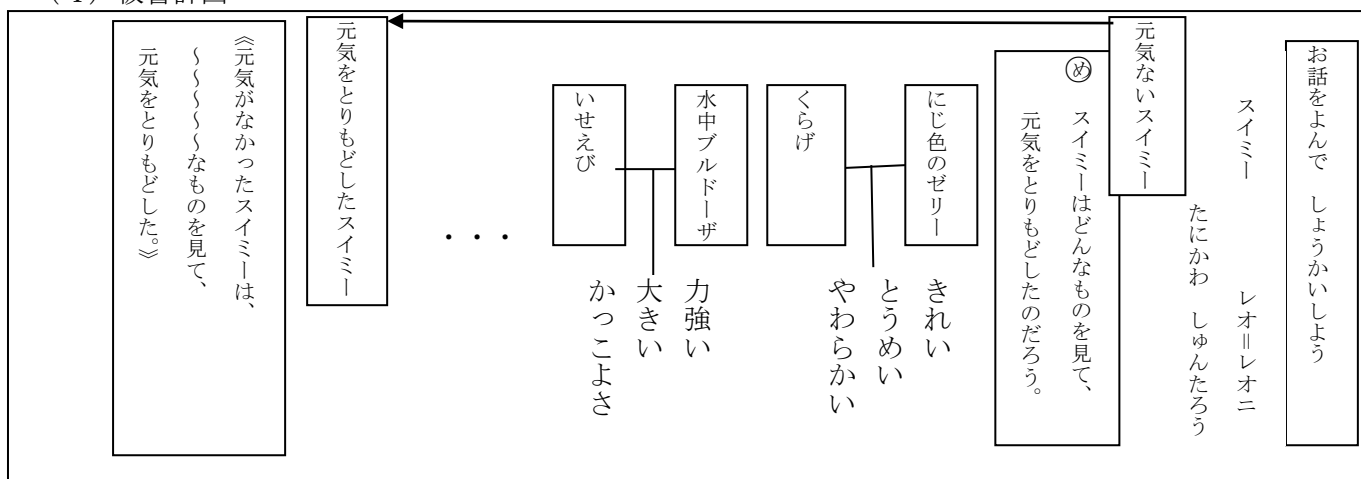
(2) 準備物 センテンスカード、ワークシート、挿絵、写真 (ブルドーザー、いせえび、うなぎ、ヤシの木、いそぎんちゃく、ドロップなど)

(3) 指導過程

学習活動 ・ 学習内容	子どもの思考の流れ	・指導の工夫 □評価 ◎対話的な学び、振り返りに向かう手立て
1 前時を振り返り、本時の学習の流れを確認する。(2分)	・前の学習では、おそろしいまぐろが、小さな赤い魚たちを一匹残らず飲み込んでしまったんだっただよね。	・電子黒板に前時の板書の写真を提示し、前時の学習を想起させる。
2 めあてを確認する。(3分)	・いろいろな海の生き物が出てくるな。どうしてスイミーは元気を取り戻せたのかな。	◎例えを表す言葉を違う言葉に変えたものを提示し、本文との違いを探すことで、様子を表す言葉に注目しやすくする。
☑めあて スイミーは、どんなものを見て、元気をとりもどしたのだろう。		

<p>3 音読をする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の素晴らしいもの ・例えを表す言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、スイミーが海の美しいものに会って、だんだん元気を取り戻していく場面を読んでいくのだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読することによって、本時に扱う場面の話の流れを確かめさせる。 ・センテンスカードを提示し、様子を表す言葉に注目しやすくする。
<p>4 様子を表す言葉に注目して、スイミーが何を感じたのか想像したことを書き、グループで話し合う。(一人学び→グループ→全体) (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えを表す言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・(にじ色のゼリーのようにくらげに会って)「きれいだな。おもしろいな。さわってみたいな。」 ・(水中ブルドーザーみたいないせえびに会って)「かっこいいな。強そうだな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの気持ちを想像しやすくするために吹き出しにスイミーの台詞を書かせる。 ・机間指導で、児童の生活経験の偏りを見つけ、必要に応じて、写真を提示し、言葉のイメージをもちやすくする。 ☑️友達との関わりを大切にして、様子がわかる言葉に着目して叙述のイメージを話し合おうとしている。
<p>5 この場面のあらすじをまとめる。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじ ・様子を表す言葉 ・様子を表す言葉から想像した言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がなかったスイミーがきれいなものや力強いものなどを見て、元気を取り戻した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとのあらすじを、小さな短冊に書いておき、紹介文づくりの一助にする。 ・あらすじの書き出しを提示し、使えるようにする。 ☑️できごとや人物の行動を確かめ、様子が分かる言葉から想像を広げている。(発言)
<p>6 まとめたあらすじを紹介し合う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじ ・様子を表す言葉 ・様子を表す言葉から想像した言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、スイミーがきれいなものなどを見て元気を取り戻したとまとめました。 ・〇〇さんは、私が使っていない言葉を使っていて、なるほどと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が書いたあらすじを電子黒板に写し、共有できるようにすることで、友達の考えのよさに気づかせる。
<p>7 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かる ・関わる ・つなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・この場面では、スイミーが元気を取り戻す場面だと分かった。 ・グループで話し合ったら、よくわからなかった言葉がよくわかった。 ・他の本でも、例えを表す言葉に注目して読んでいきたい。 	<p>◎振り返りの前に、ペアでお互いの振り返りを共有することで、振り返りを文章化する際の助けにする。</p>

(4) 板書計画



(5) 本時における目指すべき深い学びの姿

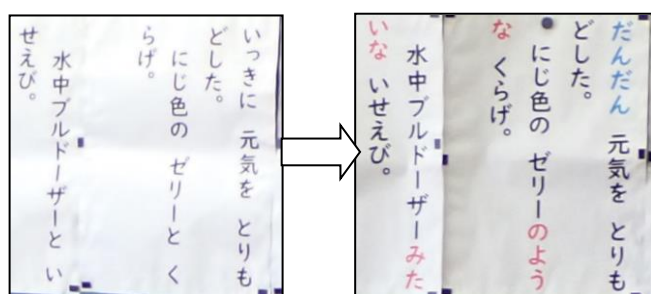
対話での気づきをもとに、主人公の心情に着目しながら作品を捉え、自分の考えを再考している。

7 反省及び考察

(1) 「対話的な学び」に向かうために有効だった手立て

(ア) 注目させたい文章を視覚的かつ焦点化したセンテンスカードの活用

対話的な学びを実現するための前提として、学習課題に対する児童全員の理解をそろえることが大切であると考え。そうすることで、児童一人ひとりが教材文の言葉と向き合ったり（一人学び）、友達のと比較検討したり（とも学び）することができる。その点で、意図的に本文とは異なる言葉に置き換えた文章を提示して本文との違いを探索させたり、大切な言葉に色を付けたりして、注目すべき言葉を視覚的に提示できるセンテンスカードの活用は、その後の対話的な学びに向かう有効な手立てになった。さらに、どこに注目すればよいのか分からない児童にとって、教材文の一部分を切り取って提示されるセンテンスカードはどの児童にとってもわかりやすく、安心して学習課題に向き合うことができる手立てであると考え。



注目させたい文章を提示するセンテンスカード



教材文との対話（一人学び）の後の発表タイム

(イ) 言葉のイメージを助けるヒントカード（写真・挿絵）の活用

児童の生活経験の違いや既存の語彙の違いによって、教材文の言葉のイメージがつかみにくいことが考えられる。言葉のイメージを持たせる一助として、予め言葉の意味を調べさせておくことも考えられる。しかし、本教材の特徴でもある情景や様子が生き生きと伝わる比喩表現から物語を豊かに想像させるために、今回は、必要に応じて、ヒントカード（写真・挿絵）を活用することで本文の言葉のイメージをもちやすくした。このヒントカードによって、「水中ブ

「ブルドーザーみたいないせえびって何だろう。イメージが湧かないね。」と話していた児童に対し、別の児童が写真を指しながら「ブルドーザーってこんな感じでね、ゆっくり動くんだよ。だから、海の底をゆっくり動くいせえびが水中ブルドーザーに見えたんだと思うよ。」と説明している場面も見られた。また、「ドロップって何？」とつぶやいた児童に、また別の児童が写真を見ながら、「ドロップってカラフルな飴のことだよ。ほら、おいしそう。」と話す場面もあった。このように、ヒントカード（写真・挿絵）を活用は、二年生の児童にとって言葉のイメージを膨らませる一助になっただけでなく、その言葉から受けるイメージを友達と共有することで、教材文の叙述についてより深く話し合うことができる有効な手立てになったと考える。



ヒントカード（写真・挿絵）の一例

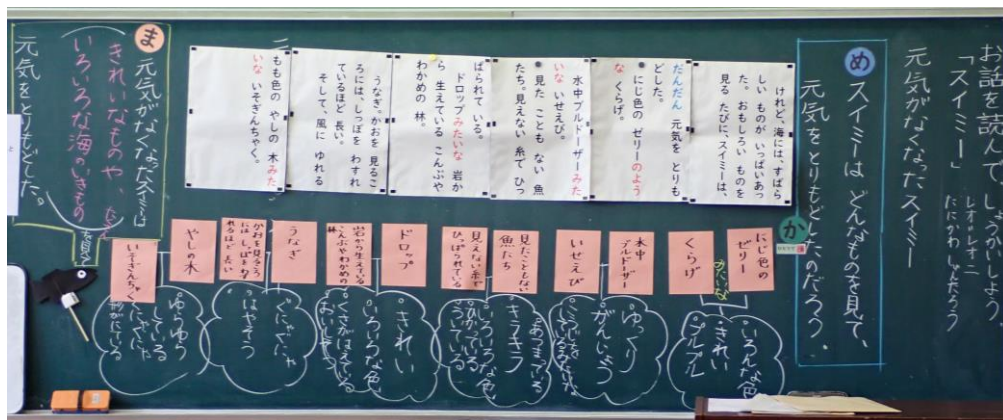


ヒントカードを見ながらグループで対話

(2) 自分の学びを見つめ直す「振り返り」のために有効だった手立て

(ア) 振り返りの視点の提示と児童の思考の流れが分かる板書の工夫

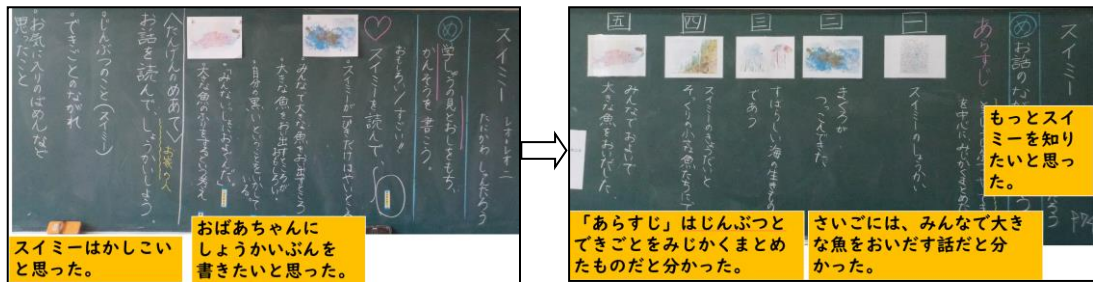
自分の学びを見つめ直す振り返りのために、三つの視点（①分かったこと ②友達との関わりから学んだこと ③これから学んでみたいこと）を児童と共有して毎時間の振り返りを行っている。この振り返りの視点に沿って、児童は自分の学びを見つめ直すことができている。さらに、振り返りを書く際には、友達の名前を入れて書くように指導した。こうすることによって、友達の考えのよさや、対話のよさを実感し、自分の学びを見つめ直すきっかけにすることができる。これは、本校の低学年の目指す子ども像のひとつ、「友達との関わりを大切にして、学んだことを表現する」力の育成にも重要な視点である。その上で、㊦あて→㊧んがえ→㊨とめ→㊩りかえりの一連の流れの中で、自分や友達の意見が残っている板書は児童が振り返りを書く際の一助となっていた。



(イ) 児童の振り返りの共有

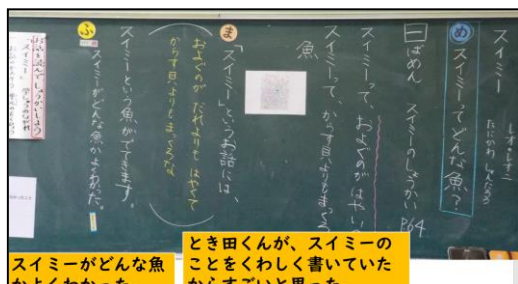
毎時間の授業の最初に、前時の板書と児童の振り返りを電子黒板に写しながら共有した。このことによって、児童は前時までの学習を思い出すことができ、新たな学習課題へと円滑に繋

げることができた。さらに、児童の振り返りを共有することで、児童の振り返りの質も向上していったように思う。最初は、振り返りの視点の「①分かったこと」しか書いていなかった児童も、次第に「②友達との関わり」についての記述も見られるようになり、自分の学びを見つめなおす「振り返り」に向かわせる有効な手立てとなった。

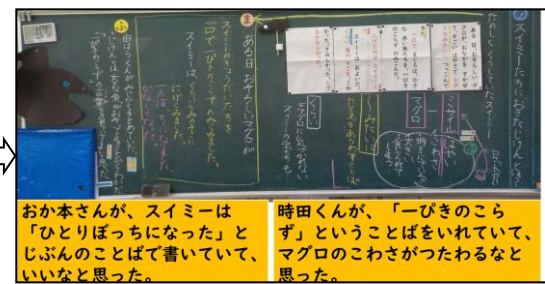


第一次（一時間目）の板書と振り返り

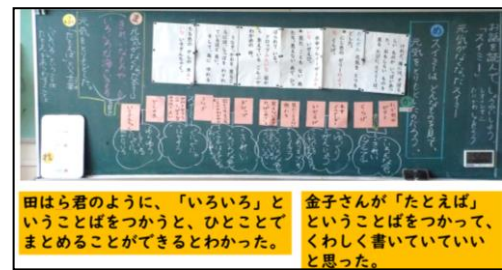
第一次（二時間目）の板書と振り返り



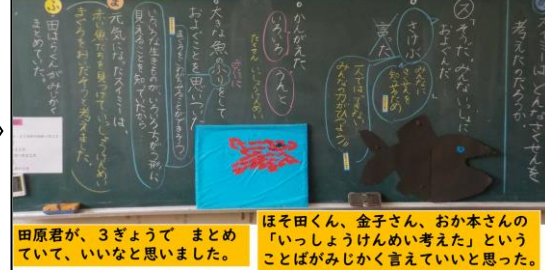
第二次（三時間目）の板書と振り返り



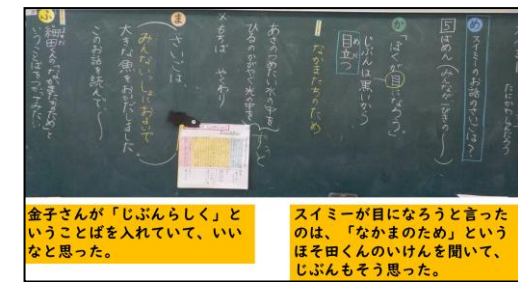
第二次（四時間目）の板書と振り返り



第二次（五時間目）の板書と振り返り



第二次（六時間目）の板書と振り返り



第二次（七時間目）の板書と振り返り

(3) おわりに

今回の授業をするにあたり、校内の多くの先生方のお知恵をお借りしたり、長門市教育委員会 飯田将之指導主事にご指導を頂いたりして、「対話的な学び」や「振り返り」を充実させることで児童の深い学びを実現させていくための示唆を得ることができた。今後も、「児童」が主語の授業づくりを目指して実践を重ねていく。